S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

インフルエンザ
－昨冬の流行状況－

ウイルス分離状況から見た昨冬(2002-2003シーズン)の流行の特徴は、

①A香港型とB型との混合流行であった。全国的にはA香港型が先行してシーズンが始まり、シーズン半ばからB型が分離されるという従来のパターンであったが、県内ではシーズン当初（11月）にB型が県内数ヶ所の小学校の集団発生から分離された。

②B型は、抗原性の異なる2つのタイプ(山形系統およびビクトリア系統)に分けられる。2000年までは東アジア地域に限局していたビクトリア系統は、2001-2002シーズンから世界的に拡がり、昨冬のB型はビクトリア系統が主流となった。国内および県内分離株もビクトリア系統がほとんどを占めた。

③Aソ連型は、国内では1株が滋賀県で分離されたのみであった。海外ではB型と共に流行の主流であった。

④世界的に拡がりつつある新ウイルス「A/H1N2」は、昨冬は国内では分離されなかったが、欧米諸国では依然として分離報告があった。

などが挙げられます。これから冬季を迎えるにあたり、SARSコロナウイルスの海外における動向をも視野に入れて、国内の今後のインフルエンザ流行を慎重に監視する必要があります。

病原体定点の先生方には検体採取に御協力をお願いいたします。

県内のインフルエンザウイルス分離数

シーズン	Aソ連	A香港	B	C	計
1999-2000	185	109	0	3	297
2000-2001	54	33	42	0	129
2001-2002	37	105	21	1	164
2002-2003	0	95	85	0	180